

2015 年度
事業報告書
会計報告書



協働プロジェクト（学校保健教育）を行っている小学校にて（バングラデシュ）


医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 今年度の歩み	1
2. 海外諸活動	4
2-1 海外派遣	4
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	4
(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー	5
(3) タンザニア 弓野綾ワーカー	6
2-2 短期ワーカー派遣	8
2-3 研修生・奨学金支援	8
2-4 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	13
(1) BDP 学校保健プロジェクト バングラデシュ	13
(2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト タンザニア	14
(3) SALT プロジェクト カンボジア	15
2-5 災害救援復興支援	16
(1) ネパール	16
3. 国内諸活動	16
3-1 国際保健人材育成	16
3-2 東日本大震災被災者支援	19
3-3 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	20
3-4 マーケティング	25
4. 運営会議	29
4-1 第 54 回定時社員総会	29
4-2 理事会	29
4-3 委員会	30
4-4 5 カ年計画 2013 モニタリング	32
4-5 評価	32
5. 事務局	32
6. 一般会員・社員会員の現状報告	33
7. 2015 年度の主な動き	33
8. 会計報告	36
貸借対照表	36
貸借対照表内訳表	37
正味財産増減計算書	38
正味財産増減計算書内訳表	41
財務諸表に対する注記	44
附属明細書	46
財産目録	47
公益目的事業会計 収支計算書	49
法人会計 収支計算書	52
収支計算書総括表	54
収支計算書に対する注記	55
監査報告書	56
付録 2015 年度出版物に掲載された記事の一部	58

1. 今年度の歩み

＜常務理事 大友宣＞

今年度も、会員¹、支援者、ボランティアの皆様のあたたかいご支援、ご協力と祈りの心に支えられ、アジアやアフリカの人々と共に生きる活動を続けることができました。また、東日本大震災で被災された方々への支援も、皆様のご理解とご協力により、JOCSの海外での経験を活かして活動を展開できました。お支えくださいました皆様すべてに心から感謝申し上げます。

今年度は、「5ヵ年計画 2013」の3年目にあたりました。すべての人の健康といのちがまもられる世界を目指し、JOCSはこの計画を作成し、ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクトを3本の柱として活動しています。今年度、計画中間での振り返りを行い、後半の活動に備えました。安保法制が議論される中、非戦に関するメッセージを発信しました。活動地の人々と共に生きる私たちの活動をこれからも充実させてまいります。変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2015年度の活動の概要を以下に記します。

(1) 海外諸活動

1) ワーカー派遣

今年度は、タンザニアへ新たに1名のワーカーを派遣した。バングラデシュには2名のワーカーを引き続き派遣し、加えて1名の短期ワーカーを派遣した。それぞれの活動は次のとおりである。

タンザニアでは、4月に赴任した弓野綾ワーカー（医師）が、スワヒリ語の語学研修を経て、タボラの聖アンナ・ミッション病院での診療およびタボラ大司教区での診療統計分析能力強化プロジェクトへの協力などの活動を開始した。

バングラデシュでは、山内章子ワーカー（理学療法士）が6月から第3期の活動を開始した。各地で理学療法技術者や現場スタッフの技術教育に取り組み、またリハビリテーションを必要としている人への理学療法を実施した。岩本直美ワーカー（看護師）は、ラルシュ・マイメンシンで、知的障がいのある人々のための施設の運営と組織強化に携わった。2016年3月に任期を終えて帰国し、全国で報告会を行っている。短期派遣として、乾真理子ワーカー（医師）がバングラデシュのクリニックで診療活動を行った。

2) 奨学金支援

アジア、アフリカの保健医療従事者育成を目的とした奨学金は、新規受給者・継続

¹会員：本報告書の中で特にことわりのない場合は、社員会員及び一般会員の皆様を指します。

1. 今年度の歩み

者を合わせ、インド、インドネシア、ウガンダ、ネパール、タンザニア、バングラデシュの 67 名の研修を支援した。

今年度は職員がタンザニアに出張した際に奨学生と元奨学生を訪ね、元奨学生たちが地域医療に貢献している様子を確認した。

3) 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）（Project “LITTLE” = “Living together with the people”）

協働プロジェクトは、今年度、バングラデシュ、タンザニア、カンボジアで 3 つの事業を行った。それぞれモニタリングをしながら、現地団体と協働して活動を行っている。加えて、ケニアでのプロジェクトを開始すべく、情報収集を行った。

2010 年 4 月から開始したバングラデシュでの学校保健教育プログラムは、期間を延長しての 1 年間が終了した。2 月に職員が訪問し、モニタリングを行った。

タンザニアでの診療統計分析能力強化プロジェクトは 3 年目を迎えた。適宜職員が訪問し、モニタリングを行っている。

カンボジアの小中学校での健康教育は当初 2015 年 9 月までの 1 年を試験期間として実施していた。評価を行った結果、2 年目以降も継続することとした。

ケニアでは、2016 年 4 月から現地の障がい児療育事業への基礎づくりへの協力を開始する予定である。

4) 災害救援復興支援

4 月 25 日にネパールで発生した大地震で被災された方々を支援するために、ネパールの協力団体の要請を受け、各団体が行う活動に災害復興救援資金から送金して支援を行った。

（2）国内諸活動

前年度まで収益事業として実施していた使用済み切手運動を、今年度から公益目的事業に統合した。誰もが参加できる国際協力活動として、収集においても整理作業においても、多くのボランティアの協力が得られた。

第二期の任期を終えて帰国した山内章子ワーカーの報告会を 5 月まで開催し、参加者に障がいのある人と共に生きることについて考えてもらう機会を提供すると共に、JOCS の活動全体をアピールし、新入会者を増やす取り組みを行った。

また、東京と大阪それぞれで「JOCS のつどい」を開催した。これは、既存の支援者の方々への報告に加えて、これまで JOCS の活動を知らなかった方々の理解と賛同を得ることを目的した。

国際保健医療協力に関心をもつ方々のために実施している勉強会とフィールドセミナーを今年度も開催し、毎回多くの参加者を得た。

また今年度も、皆様のご協力を得て、東日本大震災被災地での支援活動を継続する

ことができた。釜石へ訪問看護チームの派遣、福島では児童養護施設の子どもたちを放射能による健康被害からまもる活動への協力を継続した。

(3) 運営会議

第54回定時社員総会を6月に開催した。決算、新理事の就任、規程の改定が承認された。理事会は年に7回開催し、様々な議題に対して真摯な協議を行った。

今年度も、多くのボランティアの皆様が JOCs の活動を支援してくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 海外諸活動

テロが続発する世界情勢のなかでの安全保障関連法の制定により JOCS の海外での事業はより一層のリスク管理が必要となってきたが、そのような状況の下 2015 年度は 3 名のワーカーと 1 名の短期ワーカーが活躍し、3 件の協働プロジェクトを実施した。また 6 カ国 67 名の奨学生が学び、ネパールの震災では 4 団体の救援復興活動を支援した。

【2-1】 海外派遣

岩本ワーカーはバングラデシュのラルシュ・マイメンシンへの派遣 5 期目が 2016 年 3 月まで期間延長となった。6 月に山内ワーカーがバングラデシュ障がい者コミュニティーセンターに 3 期目着任、4 月に弓野ワーカーがタンザニアに赴任した。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：Taizé Community（テゼ共同体）

L'Arche Mymensingh（ラルシュ・マイメンシン）

赴任期間：2012 年 5 月～2016 年 3 月

1) ラルシュの家の建築と土地購入、及び それに伴う資金調達活動

先に購入した土地の地質調査をした結果地盤の弱さが指摘され、当初予定していた 4 階建ての建物の建築を 2 階建てに変更することになった。これによりそのデザインを縮小変更せざるを得なくなり縮小した分の間取りを確保するために、購入した土地に隣接する土地をさらに購入した。

これに多額の資金を必要としたため、手元資金はそれへ充当させることを優先させ、家の建築費用の募金は次年度に持ち越しとなった。



コミュニティーメンバーと岩本ワーカー

2) ラルシュの理事会の強化

イスラム教徒の女性が理事として新しく着任し、7 名の理事会となった。ラルシュ・マイメンシンの財政難を機に理事会がバングラデシュ国内での募金活動に力を入れ、本年度 170 万円相当額を超えるご寄付をいただいた。

3) コミュニティリーダー（岩本）の職責の分担

個々のアシスタントの資質や力量に応じ、岩本が抱えている役割の一部を委譲したが課題は多い。諸行事の実施は上手いが、見通しを持った計画の立案やコミュニケーションが弱い。一方、有能な外国人女性がラルシュ・マイメンシンに加わることを希望しており、岩本の補佐を十分期待できるためその方向で諸事を進めている。

4) コミュニティの覚え書き評価及び次期覚え書きの作成

コミュニティ関係者が一同に会し旧覚え書き（5 ヶ年）の最終評価を行い、新覚え書き（2021 年 2 月迄の 5 ヶ年）を作成した。旧覚え書きの具体的課題の多くは実施され、全体に達成感があった。今後取り組む主要課題はバングラデシュ人リーダーの養成と責任の委譲、給与など諸規定の見直しと策定であり、新覚え書きに盛り込まれた。

5) コミュニティ生活およびアシスタントの質の向上

アシスタント養成のため様々なプログラムを実施した。インド西ベンガル州にある二つのラルシュには 3 名のアシスタントを送り、日本の「べてるの家」には岩本と女性アシスタントが共に招かれ「かなの家」でもすごすことが出来た。国際ラルシュがアジアで初めての国際養成プログラムを実施したことは画期的であった。その学びとホスト役としての体験はアシスタントたちの自信に繋がった。

本年度もフランスの姉妹コミュニティから 7 名の友人を迎えた。ラルシュスポーツフェスティバルでは、地域から知的障がい者に関わる 3 団体を招き 170 名が親交を深めた。「べてるの家」から贈られた電気自動車による送迎サービスは、作業所に通うことが困難であったメンバーたちの生活を大変豊かなものにした。

6) 活動報告会

第 5 期の任期満了後 2016 年 3 月に帰国し、4 月より始まる活動報告会の準備を行った。

(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー （理学療法士）

派遣先：PCC (Protibondhi Community Centre：障がい者センター)

赴任期間：2015 年 6 月～2018 年 7 月

1) PCC (障がい者センター) (マイメンシン県)

- ・初級理学療法コースを 12 月より開始した。
生徒は 8 名。長く PCC でボランティアとして活動し、今後 PCC のスタッフとなりうる人が選ばれた。月 2 回のペースで講義を行ったほか、火曜外来を利用した理学療法技術実習を行った。2016 年 6 月まで継続する。



スタッフに理学療法の指導をする山内ワーカー

- ・女性クラブは、能力向上のため、中心となる
3 人の女性たちに英語のトレーニングを開始した。また、パソコン、インターネットの使用方法などを指導し、これにより、Email での注文のやりとり、PCC の外国人ゲストが自国に帰国した後の関係の継続など、具体的な活動の拡大につながった。女性クラブのその他のメンバーの能力を育てる機会を提供するには、情報収集が不十

2. 海外諸活動

分だった。

2) Kailakuri Clinic (タンガイル県)

クリニックを運営していたベーカー医師が9月1日に天に召された。後任のジェイソン医師もお連れ合いの出産により着任が遅れており、活動の停止を心配していたが、多くの方々の協力で継続できている。理学療法担当のシルピー氏もトレーニングを継続できている。しかし、カイラクリでの治療実習はできているが、マイメンシンでの講義は9月以降止まってしまっている。

3) KPKS (Kalibari Protibondhi Koran Shomiti) (カリバリ障がい者協会)

月に1回ないし2回の理学療法外来をすることができたが、理学療法技術者候補は見つからず、指導は先送りされている。

知的障がい児・者の家族の教育のための集会を、知的障がい児のデイケアをしているティナ氏に協力を要請し、定期的に開催することとした。

4) CPD (Centre for People of Disabilities : ディナジプール県 Dhanjuri mission 内)

9月に一度訪問したが、その後バングラデシュ内の情勢不安のため、大使館からの安全確保の勧告もあり、訪問を見合わせている。

5) Butahara mission (ラッシャヒ県)

残念ながら、活動を中止することになりそうである。神父2名と、理学療法技術者のロビンドロ氏の間に、原因不明の亀裂がある。神父たちと山内のスケジュールが合わず訪問が先送りになっている間に、ロビンドロ氏は自分で解決することをあきらめてしまった。

(3) タンザニア 弓野綾ワーカー (医師)

派遣先 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

St. Ann's Mission Hospital (聖アンナ・ミッション病院)

赴任期間 : 2015年4月～2018年3月

1) 聖アンナ・ミッション病院での活動

①病棟診療

・月曜から木曜に、小児病棟または成人・母子病棟を回診し、各々15～25名程度の診療を担当した。頻度の高い病気は、マラリア、腸管感染症、貧血、尿路・骨盤内感染症、帝王切開等であった。当地に適した治療や診断法を学び、また必要時には助言を行った。

②外来診療

・月曜から木曜に、1日3時間程度外来診療を行った。総合外来であるため、小児・成人・妊婦・小外科処置を要する例など多様な患者が受診した。多い病気は、病棟と同様に感染症であった。内科疾患などが「複雑症例」として紹介されてきた場合は

助言を行った。

- ・タボラで内科慢性疾患（糖尿病、高血圧等）が増加する傾向にある。当院のニーズを把握した後、慢性疾患治療の外来を開始する予定である。

聖アンナ・ミッション病院の病棟で見られる疾患（2015年）

順位	疾患	入院数	%
1	マラリア	4,257	58.1%
2	上気道炎	941	12.8%
3	下痢症	440	6.0%
4	腸管寄生虫	344	4.7%
5	手術	269	3.7%
6	尿路感染症	206	2.8%
7	肺炎	182	2.5%
8	貧血	175	2.4%
9	その他	172	2.3%
10	糖尿病	100	1.4%
11	小外科	75	1.0%
12	HIV/AIDS	54	0.7%
13	喘息	42	0.6%
14	産婦人科疾患	42	0.6%
15	熱傷	34	0.5%
	合計（総入院数）	7,333	100.0%

2) TAHO での活動

①診療統計分析能力強化プロジェクト（協働プロジェクト）への協力

- ・金曜と土曜に、TAHO 傘下にある 10 の保健医療施設の診療状況を把握するための診療統計資料作成を支援した。JOCS 事務局と随時連携しながら、2012 年～2015 年分のデータ収集・入力を TAHO と共に行い、2012 年および 2013 年の年次報告書を完成させた。
- ・今後は、データ収集から分析、報告書作成までを TAHO が主体となり行う予定である。

②スーパービジョンへの協力

- ・TAHO 傘下の保健医療施設を四半期ごとに巡回して診療内容を視察し、必要な助言を行った。各々のスーパービジョンのテーマ（2015 年 9 月：マラリア診療、2016 年

2. 海外諸活動

1 月：マラリアと周産期ケア）にそって専門家を招聘し、診療内容の評価を行った。
スーパービジョンの準備・運営と、振り返りへの協力を行った。

③保健セミナー開催の支援

・2015 年 10 月に TAHO が、TAHO 傘下の保健医療施設の職員を対象として、マラリア診療の質の向上を目的としたセミナーを 2 泊 3 日で開催した。その準備と振り返りを支援した。

・セミナーの前後で筆記試験を行ったところ、参加者全員がセミナー後の方が高い点数を獲得していた。平均で 38%（セミナー前 42.9 点→後 59.1 点）点数が伸びており、セミナーによる学習効果が確認できた。



セミナーにてマラリアの薬の使い方の実演をする弓野ワーカー

【2－2】 短期ワーカー派遣

5 月から 8 月にかけて乾真理子ワーカー（医師）をバングラデシュのカイラクリ・ヘルス・ケアー・プロジェクトへ派遣した。ベーカー医師（故人）の職務を後任に移管するまでの間の橋渡しを目的とした派遣であったが、ベーカー医師は天に召され、諸般の事情により後任の着任は間に合わなかった。現在は現地スタッフが運営を担っている。

【2－3】 研修生・奨学金支援

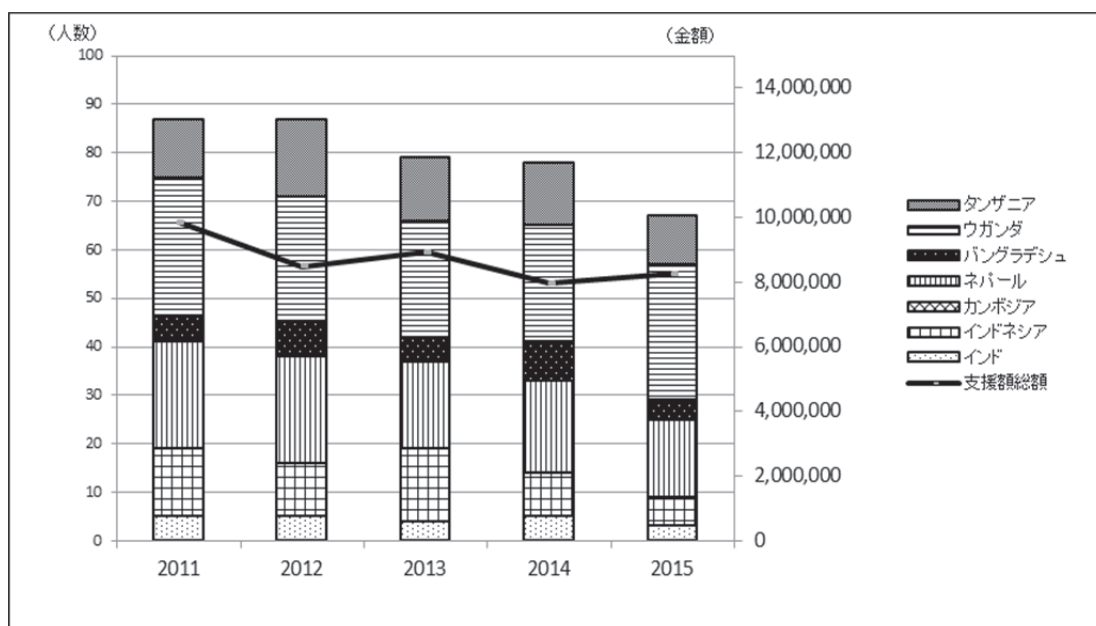
（1）2015 年度奨学金選考結果

委員会での協議の結果、4 カ国から申請のあった 41 人のうち、19 人を奨学生として支援することとした。

対象国	2015 年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	2	2
ネパール	11	5
ウガンダ	17	8
タンザニア	11	4
合 計	41	19

新たに 19 人の奨学生が承認された結果、2015 年度はインド 3 名、インドネシア 6 名、ネパール 16 名、バングラデシュ 4 名、ウガンダ 28 名、タンザニア 10 名の合計 67 名に奨学金の支援を行った。詳細は 2015 年度奨学生一覧（10～12 ページ）を参照。

(2) 過去5年間の奨学生数と支援額の推移



(3) 奨学金事業モニタリング

協働プロジェクトのモニタリングのために職員がタンザニアに出張した際、奨学金事業のモニタリングを行い、奨学生の研修の様子および元奨学生の現在の働きを確認した。インドとネパールでも奨学金事業のモニタリングを実施予定であったが、2015年度は中止となり、2016年度に延期することとなった。

2015年度奨学生一覧表注

*職業は奨学金申請時点のもの

*GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)

*ICAHS : Indonesia Christian Association for Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

*HDCS : Human Development and Community Services (ネパールのキリスト教系 NGO)

*LMN : The Leprosy Mission Nepal (ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際 NGO)

*PIME : Pontificio Istituto Missioni Estere (カトリック・ミラノ外国宣教会)

*UMN : United Mission to Nepal (ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO)

*UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)

*TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

2. 海外諸活動

2015年度奨学生一覧

インド

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
学生	女	22	Christian Fellowship Hospital	医学	2011年7月～2016年1月
学生	女	20	Christian Fellowship Hospital	歯学	2013年9月～2015年9月
看護師	女	27	Christian Fellowship Hospital	看護学修士	2014年8月～2016年8月

インドネシア

看護師	女	32	GKST Sinar Kasih Hospital	薬学	2011年6月～2015年8月
事務	女	23	GKST Sinar Kasih Hospital	栄養学	2013年9月～2016年9月
看護師	女	34	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学修士	2014年6月～2015年12月
ボランティア	女	27	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2014年7月～2017年7月
学生	女	25	ICHAS-Bethesda Hospital	医学	2013年1月～2017年12月
看護師長	女	42	ICAHS UKI Hospital	看護学修士	2015年7月～2017年7月

ネパール

無職	男	24	HDCS	臨床検査	2012年12月～2015年12月
村落保健員	男	34	HDCS Chaurjahari Hospital	公衆衛生	2013年7月～2016年7月
検査技師助手	男	38	HDCS Chaurjahari Hospital	臨床検査	2013年7月～2016年7月
外来主任	男	36	HDCS Chaurjahari Hospital	経営学	2013年8月～2015年8月
准助産師	女	32	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年9月～2017年9月
看護助産師助手	女	29	HDCS Chaurjahari Hospital	看護学	2014年10月～2017年10月
事務・会計担当	男	27	HDCS Lamjung District Community Hospital	ヘルスケアマネジメント 修士	2015年12月～2017年12月
看護講師助手	女	38	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2013年6月～2015年6月
看護講師助手	女	37	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2014年9月～2016年9月
看護師	女	28	The LMN Anandaban Hospital	看護学修士	2012年12月～2015年10月
検査技師	男	46	UMN Hospital Tansen	医用画像工学	2012年9月～2016年8月
看護師	女	31	UMN Hospital Tansen	看護学修士	2013年3月～2016年3月
看護助産師助手	女	49	UMN Hospital Tansen	看護学	2013年11月～2016年11月
上級保健衛生士	男	46	UMN Hospital Tansen	公衆衛生	2014年10月～2017年10月
準看護・助産師	女	44	UMN Hospital Tansen	看護学	2014年10月～2017年10月

2015年度奨学生一覧

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
看護講師助手	女	38	Tansen Nursing School	看護学	2014年1月～2017年1月

バングラデシュ

無職	女	22	Mahamuni	看護・助産学	2012年1月～2015年7月
無職	女	21	PIME Sisters	看護・助産学	2013年2月～2016年2月
その他	女	21	PIME Sisters	看護学	2014年2月～2017年2月
学生	女	21	なし	看護学	2014年2月～2017年2月

ウガンダ

准看護師	男	30	UPMB Akisyon A Yesu	医学	2012年8月～2015年8月
看護助手	女	24	UPMB Amuca SDA HC III	助産学	2014年10月～2017年4月
准看護師	男	30	UPMB Azur Christian Health Centre IV	看護学	2015年5月～2016年11月
看護師	男	24	UPMB Bwindi Community Hospital	臨床医学・公衆衛生	2013年8月～2016年8月
准助産師	女	23	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
准看護師	女	26	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
准看護師	女	29	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2015年5月～2016年11月
検査助手	男	30	UPMB Diocese of Northern Uganda	臨床検査	2015年8月～2017年8月
看護師手伝い	女	26	UPMB Goli Health Centre III	助産学	2013年11月～2015年11月
医師長	女	39	UPMB Kabarole Hospital COU	小児医学・小児看護	2013年8月～2016年8月
ヘルスセンター責任者	男	30	UPMB Kei Health Centre, Here is life	医学	2012年9月～2018年6月
医師	女	29	UPMB Kiruhura District Local Government, Rushere Community Hospital	麻酔学	2013年9月～2015年9月
検査助手	男	27	UPMB Kiwoko Hospital	臨床検査	2015年8月～2018年8月
准看護師	女	39	UPMB Kiwoko Hospital	看護学	2013年5月～2015年5月
看護師	女	41	UPMB Kiwoko Hospital	看護学	2013年9月～2016年9月
暗室助手	男	27	UPMB Kumi Hospital	臨床医学・公衆衛生	2013年8月～2016年8月
准助産師	女	29	UPMB Kumi Hospital	助産学	2014年5月～2015年11月
看護助手	男	29	UPMB Kumi Hospital	看護学	2014年11月～2017年5月
看護師	女	34	UPMB Mengo School of Nursing	看護学	2012年8月～2015年8月

2. 海外諸活動

2015年度奨学生一覧

職業	性別	年齢	団体名	研修内容	研修期間
准看護師	女	28	UPMB Mengo Hospital	助産学	2014年5月～2015年11月
看護師	男	26	UPMB Mukono C.O.U Hospital	看護学	2015年5月～2016年11月
准看護師	女	32	UPMB Ruharo Mission Hospital	助産学	2014年5月～2015年11月
薬剤師	男	29	UPMB Ruharo Mission Hospital	薬学	2014年8月～2018年2月
准看護師	女	37	UPMB South Rwenzori Diocese	看護学	2014年11月～2016年11月
准看護師	男	27	UPMB South Rwenzoi Diocese	看護学	2015年5月～2017年5月
准看護師	男	33	UPMB South Rwenzori Diocese	臨床医学・公衆衛生	2015年5月～2018年5月
ヘルスセンター責任者	男	28	UPMB St. Luke Katiyi Health Centre III	臨床医学・公衆衛生	2012年8月～2015年8月
准看護師	女	25	UPMB West Ankole Diocese	助産学	2015年5月～2016年11月

タンザニア

医療助手	男	21	TAHO Igoko Dispensary	医学	2014年9月～2016年9月
医療助手	男	20	TAHO Igoko Dispensary	臨床検査	2015年9月～2017年9月
看護師	女	47	TAHO Ndala Hospital	看護学	2014年8月～2017年9月
医療助手	女	27	TAHO Ndala Hospital	放射線診断学	2015年9月～2018年9月
神父、カウンセラー	男	48	TAHO Sikonge Dispensary	医学	2014年9月～2017年9月
医師補	男	31	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	医学	2012年8月～2017年8月
看護助手	女	29	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	看護・助産学	2014年4月～2016年4月
看護助手	男	26	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	看護学	2014年10月～2016年10月
受付係	男	22	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	放射線診断学	2014年10月～2017年10月
医師補	男	29	TAHO St. Ann's Mission Hospital (Ipuli Health Centre)	医学	2014年10月～2019年10月

【2-4】 協働プロジェクト（プロジェクト・りとり）

2015 年度は前年度に引き続き、バングラデシュ、タンザニア、カンボジアの 3 件のプロジェクトを現地協力団体と協働して実施した。バングラデシュの案件は延長期間の目的達成の評価を実施し終了した。また、2016 年度からケニアで新規案件を開始することが決定した。

（1）プロジェクト名：学校保健教育プロジェクト

対象国 : バングラデシュ
 対象地域 : ダッカ
 プロジェクト期間 : 2015 年 4 月～2016 年 3 月（延長期間）
 協力団体 : BDP（Basic Development Partners）
 受益者 : BDP の運営する小学校に通う生徒（男女）約 3,000 人、同校を卒業した高校生女子約 100 人
 プロジェクト目標 : 対象の子どもたちが健康に関する正しい知識をもち、適切に衛生行動がとれるようになる。

進捗状況：

本年度は、プロジェクト期間（2010 年 4 月から 2015 年 3 月までの 5 年間）終了後の延長期間にあたる。終了時評価の際、この 5 年間の活動の成果をより確実にするために追加して必要とされた、「指導教本の改訂サイクルの実施」「小学校で行う保健の授業の年間計画の作成」「高校での思春期保健の授業に関する年間計画の作成と参加率向上への取り組み」「保護者対象のワークショップの参加率の向上」という 4 つの活動を重点的に行った。

指導教本の改訂サイクルの実施については、本年度、旧教本を授業で使用した教員からの意見や要望を集め、また、新たな章を追加した第二版を 10 月に作成した。その後 3 月に教員を集めた研修会を行い、4 月から学校での授業で使用を開始する。今回、改訂サイクルを実施し、計画、実行、評価、改善という流れを作ることができたため、今後も現地担当者がこのサイクルを実施していくことが期待される。

小学校で行う保健の授業の年間計画の作成については、実際に授業を行う教員の意見を取り入れた年間計画とするため、3 月に実施する教員研修の一環としてワークショップ形式で意見を持ち合い、年間計画のモデルプランを作成することとした。

高校での思春期保健の授業に関する年間計画の作成と参加率向上への取り組みについて、今年度に入り高校が保健授業のための時間をとることに難色を示すようになったため、高校での実施は見送ることとなり、代替として小学校での思春期保健の授業を行うこととした。小学校で、年 3 回のワークショップから成る年間計画を作成した。また、年間計画を生徒に示すことにより、生徒の関心を引き付け参加率向上につながるよう努めた。

保護者向けワークショップの参加率の向上への取り組みについて、BDP の行っている

2. 海外諸活動

小学校教育部門で定期的に行われている保護者会は、試験対策なども行われるため常に高い参加率を得ている。学校保健についても保護者会をその一部として行うことで、高い参加率をえることができると考え、そのように計画した。

その他、年 2 回の身体測定と、ヘルスフェスティバルの実施、保健教育を受けた子どもたちにまつわるストーリーの収集を行った。

(2) プロジェクト名：TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト

対象国	: タンザニア
対象地域	: タボラ州 タボラ大司教区
プロジェクト期間	: 2013 年 9 月～2016 年 8 月
協力団体	: TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office タボラ大司教区保健事務所)
対象者	: TAHO とその傘下の 10 の保健医療施設 (病院や診療所など)
プロジェクト目標	: タボラ大司教区保健事務所が、傘下の 10 の保健医療施設の医療データを収集、分析、フィードバックできるようになる。

進捗状況：

2015 年度は 7 月、10 月、2 月に JOCS 職員がタンザニアへ出張し、プロジェクトの進捗状況を確認した。2012 年および 2013 年の年次報告書が完成し、政府や JOCS へ提出された。報告書の内容や今後改善が必要な点などについては、各医療施設と共有されていることを確認した。

政府に提出が求められているデータの提出周期にあわせ、2015 年よりデータの記入シートを改訂し、四半期ではなく、毎月各医療施設がデータを取りまとめ、TAHO に提出することに変更した。2015 年月次データおよび年次データに関し、各医療施設から順調に提出がされていることを確認した。また提出を受けたデータを TAHO が自分で入力できるようになっていることを確認した。

以前は医療施設担当者が提出用のシートを紛失したり、誤って古いバージョンのシートを使用したりするなどの間違いが多く見られたが、TAHO が各医療施設に毎月記入するためのシート 2 部 (1 部は提出用、1 部は医療施設の保管用) とシートを整理するためのファイルを配布したことにより、紛失や古いシートの使用が大きく減少した。また、記入する項目をしぼったことおよび提出のタイミングを政府に提出するものにあわせ、四半期から毎月にしたことが功を奏し、以前の四半期のデータの時に比べ、データの回収率が上がっている。加えて、弓野綾ワーカーが各医療施設のデータ提出状況を一覧表にまとめ、スーパービジョンの機会などに未提出の医療施設に催促を行ったり、記入漏れなどを確認するチャート表を作成して随時確認しているため、記入漏れや記入の間違いなどが減少している。データ回収や入力が終了した際には、一覧表の医療施設の名前を蛍光ペンで色を付けたり、色ペンで丸く囲むようにして作業の進捗状況を一目で把握できるようになっている。この作業によって視覚的に達成感が得られるようになり、

TAHO も楽しみながら作業している様子であった。

TAHO は、2015 年 6 月、9 月、2016 年 1 月、3 月にスーパービジョンを行い、TAHO 傘下の保健医療施設を訪問し、マラリアに対する取り組みの強化などを行った。10 月には同じくマラリアをテーマにしたセミナーを実施し、各医療施設から担当者が出席して 2 日間の研修を受けた。

(3) プロジェクト名：SALT プロジェクト (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey=次世代のための健康と衛生)

対象国 : カンボジア
 対象地域 : バッタンバン州
 プロジェクト期間 : 2014 年 10 月～2019 年 9 月
 協力団体 : バッタンバン司教区ヘルスセンター
 受益者 : バッタンバン司教区周辺の学校に通う小学校 6 年生と高校 1 年生
 (プロジェクト 2 年目は 15 校、800 名)
 プロジェクト目標 : 対象の子どもたちの健康促進に関する知識の向上
 進捗状況 :

2014 年 10 月にバタンバン司教区のヘルスセンターと協働して、6 つの小中学校で健康教育を開始した。プロジェクトの最初の 1 年間は試験的实施期間としたが、プロジェクト初期と活動が一巡した後の比較調査により、受益者の小中学生の健康促進に関する知識の向上が確認されたため、2 年以降も継続することとした。2 年目以降は対象となる学校数を増やし 15 校とした。

授業の内容は小学 6 年生に対しては食事と栄養、環境衛生、個人衛生、水と食事に関係する病気、飛沫感染する病気、昆虫媒介性疾病、喫煙と飲酒について、高校 1 年生に対しては性と生殖に関する健康、ジェンダー、性病、麻薬についてなどである。

電気の来ている学校ではプロジェクターを使用した映像教材を用いている。電気の来ていない学校では同じ内容の画用紙のフリップを用いているが、プロジェクターを使用の方が生徒の興味が喚起され皆集中して話を聞くので、出来るだけプロジェクターを使用するようにしている。

2015 年 6 月と 2016 年 2 月にモニタリングを行い、健康教育実施の状況の確認及び 2 年目以降の活動内容や予算などについて各学校とバタンバン司教区と協議を行った。

カンボジアの学校は 8 月末から休みに入り 10 月から新年度が始まるが、プロジェクトの対象地域では雨季の最後にある雨による洪水とうら盆休みで 10 月は授業にならないため、11 月 1 日を始業とすることが各学校へのインタビューでわかった。そのため健康教育のスケジュールも 11 月を開始とすることとした。

また、当プロジェクトの健康教育は学校の正式なカリキュラムではないので各学校長と相談して授業を調整のうえで時間を割いてもらっているが、学校によっては学校長の一存では決められず、バタンバン州教育局の許可を取り付けなくてはならない。その

2. 海外諸活動

教育局の理解が得られず 11 月に開始が出来ないでいる学校があった。

[2－5]災害救援復興支援

(1) ネパール

大地震で被災された方々のため、ネパールの協力団体である HDCS (Human Development and Community Services)、The LMN (Leprosy Mission to Nepal) アナンドバン病院、UMN (United Mission to Nepal)、ラリトプール看護学校からの要請を受け、これらの団体が行う活動に各 30 万円、合計 120 万円を支援した。

各団体は大地震直後から被災者への支援物資の配布や医療チームの派遣を行い、その後は心理社会的カウンセリングや看護学校の再建、ハンセン病や障がいのある人たちの生活の再建に取り組んでいる。JOCS からの支援金は、これらの活動の一部に充てられた。ただし、UMN からは、その後、病院で使用する酸素生成プラントを建設するために JOCS からの支援を転用したいとの要望があり、その必要性が認められるため、転用を認めることとした。

3. 国内諸活動

東日本大震災被災者支援として、岩手県および福島県で活動した。国内啓発活動としては、使用済み切手運動をはじめとして、活動報告会、JOCS のつどいなど、多くの方が国際協力に参加する機会をもった。国際保健人材育成ではバングラデシュをテーマとする国際保健医療勉強会を実施した。

[3－1] 国際保健人材育成

2015 年度の国際保健医療勉強会は、バングラデシュをテーマとしたワーカー経験者による講義を 3 回と、最後には事務局長によるプロジェクトマネジメントの基礎講座を実施した。希望者には勉強会終了後に講師によるキャリア相談会を実施した。また例年通り草の根の人々と働く姿勢を学ぶために横浜市寿地区でフィールドセミナーを実施した。

(1) 国際保健医療勉強会

今年度は、「バングラデシュをケーススタディとした国際保健医療協力活動」をテーマに、JOCS 東京事務局にて 4 回国際保健医療勉強会を開催した。毎回勉強会終了後には、事前申し込みをした希望者に対し、講師がキャリア相談を行った。

第 1 回

日 時：2015 年 5 月 22 日（金）18：30～20：30

参加者：合計 6 名（女性 3 名、男性 3 名）

【理学療法士 2 名 看護師 1 名 作業療法士 1 名 主婦 1 名 不明 1 名】

【JOCS 会員 1 名 非会員 5 名】

題 名：「みんなで生きる：障がいを持つ人々と関わって」

講 師：山内章子氏（理学療法士・JOCS バングラデシュ派遣ワーカー）

内 容：講師がワーカーになるまでのキャリアに関する説明から、バングラデシュの障がい者のおかれている現状、リハビリテーションや理学療法技術者への技術指導などのワーカーとしての現地での活動について現地の人たちとのエピソードや写真を多く用いながら報告が行われた。質疑応答では、バングラデシュの理学療法を学ぶシステムや CBR（Community Based Rehabilitation）ワーカーと理学療法士の関わりなどについて多くの質問が出された。

第 2 回

日 時：2015 年 9 月 5 日（土）15：00～17：00

参加者：合計 7 名（女性 6 名、男性 1 名）

【医学部学生 1 名 介護福祉士 1 名 看護師 1 名 歯科衛生士 1 名
主婦 1 名 理学療法士 1 名 養護教諭 1 名】

【JOCS 会員 2 名 非会員 5 名】

題 名：「バングラデシュの田舎のクリニックで活動して」

講 師：乾眞理子氏（医師・元 JOCS バングラデシュ派遣短期ワーカー）

内 容：講師がワーカーになるまでのキャリアに関する説明から、派遣先のカイラクリ・クリニックの特徴やシステムなどの説明、ワーカーとしての現地での活動について、現地でのエピソードや写真を多く用いながら報告が行われた。質疑応答では、青年海外協力隊として郡病院での勤務経験のある参加者などと活発に意見交換が行われた。

第 3 回

日 時：2015 年 11 月 14 日（土）16：00～18：00

参加者：合計 4 名（女性 3 名、男性 1 名）

【医師 2 名 看護師 2 名】

【JOCS 会員 4 名 非会員 0 名】

題 名：「バングラデシュで学んだこと」

講 師：小宅泰郎氏（医師・元 JOCS バングラデシュ派遣ワーカー）

内 容：講師がワーカーになるまでのキャリア形成、バングラデシュでの活動とその際に多かった症例などについてグラフや写真を用いてわかりやすく報告が行われた。続けて、現在の国際保健の状況について、ミレニアム開発目標や WHO のデータによる 5 歳未満児死亡率の推移などについても説明が行われた。質疑応答で

3. 国内諸活動

は、講師が日本に帰国した後の現地の状況、バングラデシュの経験が日本の医療や患者との関わりの中で生かされていると思うことなどについて、多くの説明が出された。

第4回

日 時：2016年1月15日（土）18：30～20：30

参加者：合計7名（女性5名、男性2名）

【看護師4名 学生1名 助産師1名 理学療法士1名】

【JOCS会員3名 非会員4名】

題 名：「国際協力とプロジェクトマネジメント」

講 師：森田隆（JOCS事務局長）

内 容：経歴の紹介を行った後、JOCSの基本方針、海外事業および国内諸活動について説明を行った。続けて、支援のステージやプロジェクトの概念、プロジェクトサイクルなどについて、カンボジアでの経験を交えながら説明が行われた。質疑応答では、ワーカーの派遣先についてや参加者の今後のキャリアプランについて、およびワーカーの目標の設定などについて質問が出された。

（2）国際保健医療協力フィールドセミナー

日 程：2015年12月29日（火）～30日（水）

場 所：横浜市中区寿地区

テーマ：草の根の人々と働く姿勢を学ぶ2日間

目 的：日本国内にも存在する貧困や健康の問題を知り、寿地区で働く人々を通して、国際協力にも共通する必要な姿勢を学ぶ。

参加費：社会人 10,000円、学生 7,000円

参加者：17名（男性7名、女性10名）

【大学生4名、看護師2名、小学生2名、団体職員2名、医師1名、介護職1名、会社員1名、ケアワーカー1名、主婦1名、中学生1名、牧師1名】

【会員6名、非会員11名】

プログラム概要：

1. 寿地区について：なか伝道所 渡辺英俊牧師より
2. 越冬闘争について・寿地区街歩き：寿日雇労働組合 近藤昇氏より
3. JOCS元ワーカーの話：元パキスタン派遣ワーカー 青木盛氏より
4. 夜回り
5. 炊き出し準備
6. アルコール依存症と寿アルクの活動について：寿アルク山田施設長より
7. 医療班の活動の説明、健康相談に参加：寿医療班 森英夫氏より

[3-2]東日本大震災被災者支援

東日本大震災から5年が経過した。JOCSでは震災発生後から地元団体と協力し、被災者支援を行ってきた。2015年度は、岩手県と福島県で支援活動をした。活動には、2015年度までにいただいた東日本大震災被災者支援指定寄付を充てた。

(1) 岩手県釜石市（協力先：特定非営利活動法人カリタス釜石）

ほぼ3ヵ月ごとに看護チームを派遣した。看護チームは仮設住宅や復興住宅などを訪問し、訪問ケア活動（傾聴や血圧測定、健康相談など）やカリタス釜石の行う「お茶っこサロン（仮設住宅集会所などで開かれている被災者同士の交流の場）」などの活動に協力を行った。地元行政（地域保健課）とも連絡を取り合いながら活動を継続している。

2015年度は、4月、6月、9月、11月、3月に約1週間ずつ活動を実施し、のべ30人が参加した。出雲市民病院の鈴木正典医師の協力を受け、4月と11月に仮設住宅や復興住宅で回想法の講演を行い、看護師や保健師、介護職を対象にした回想法の研修会も実施した。

また看護チームの活動とは別に、1名の看護師がほぼ毎月釜石を訪問し、カリタス釜石のケア活動に協力を行った。

(2) 福島県内児童養護施設

「特定非営利活動法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」をパートナー団体としている。福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うための活動を支援した。

1) 個人被ばく線量測定サービス（クイクセルバッチ）着用支援

除染と自然減衰により空間放射線量は減少してきているが、福島には依然放射線量が高い地域がある。福島市の「青葉学園」及び「福島愛育園」で、外部被ばく量を把握するため、入所している子ども及び職員の着用を支援した。幼児は着用が困難であるため、子どもと一緒に生活をする職員が着用することで、被ばく量を把握している。

2) 超音波診断装置による甲状腺検査支援

2年毎の県民健康調査が実施されない年に甲状腺検査を行うことにより、甲状腺の異変の早期発見・早期治療に役立てることを目的に、児童養護施設に医療従事者を派遣し、検査を実施した。「青葉学園」「福島愛育園」「いわき育成舎」の子ども及び職員を対象とした。小学生以上には画像を見て結果を説明し、中学生以上には児童養護施設を卒園してからも検査を続ける必要性について結果とあわせて説明した。

3) 尿中セシウム検査支援

内部被ばくの査定のため、「会津児童園」「青葉学園」の子どもたちの検査を支援した。

3. 国内諸活動

4) 食品放射能測定器校正支援

「青葉学園」が内部被ばく予防対策として使用している食品放射能測定器の校正費用を支援した。

(3) 被災者支援募金

<被災者支援募金報告>

募金総額：23,264,147 円

(2010 年度 70,000 円、2011 年度 12,153,111 円、2012 年度 6,088,125 円、
2013 年度 4,828,599 円、2014 年度 112,892 円、2015 年度 11,420 円)

2015 年度末までに使用した金額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

活動地	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	合計
宮城県仙台市	877,760	960,600	936,000	0	0	2,774,360
岩手県釜石市	1,588,740	1,900,595	1,854,956	2,220,143	1,543,970	9,108,404
福島県いわき市	55,290	945,745	449,570	705,440	0	2,156,045
福島県内児童養護施設	987,000	2,554,614	810,370	1,240,503	1,321,410	6,913,897
その他	80,749	277,071	0	0	0	357,820
合計	3,589,539	6,638,625	4,050,896	4,166,086	2,865,380	21,310,526

残額 1,953,621 円は、2016 年度以降の活動に使用する。

被災者支援募金の受付は、2015 年度末をもって終了した。

[3-3]国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な環境におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、以下の活動を行った。

(1) 使用済み切手運動

2015 年度から公益目的事業に統合されたため、広報活動に一層努めた。特に事務局での切手整理ボランティア活動については、ボランティア募集が功を奏し、参加者の増加が顕著であった。また、収集活動については、新たに外国コイン・紙幣と、書き損じハガキのご寄付が増えた。使用済み切手については、送料負担キャンペーンの効果が出て、上半期の切手寄付量と換金額が増加した。2015 年度の切手寄付は、14,302 件、11,655Kg であった。

1) 広報チラシ作成

使用済み切手や書き損じハガキ、外国コイン収集についてのチラシは作成せず、新

しく始めた古本募金「きしゃぽん」の宣伝に特化したチラシを作成し活用した。3月末時点で、延べ143人から、古本募金への協力をいただいた。

2) プレスリリース強化

予定していた使用済み切手収集による国際協力活動の掲載働きかけは行わず、ワーカー報告会のみ、各新聞社に働きかけを行った。(9) プレスリリース強化参照。

3) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2015 2015年4月24日～4月26日(都立産業貿易センター台東館)

広島スタンプショウ 2015年6月27日～28日(広島県立産業会館)

高知スタンプショウ 2015年10月24日～25日(イオンモール高知)

4) キリスト教会への周知

古本募金「きしゃぽん」のチラシを、日本国内の教会向けのDMサービスを用いて約6,000教会に配布した。その後18名から古本によるご寄付があり、DMの効果と考えられる。

5) 送料負担キャンペーン

2015年4月1日～9月30日の半年間、送付合計が5Kg以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキなどの送付を、ゆうパック経由でご寄付いただいた場合に限り、送料を着払いで負担した。

キャンペーン期間中に着払いによって受託した合計重量は、177Kgで、総換金額は約200万円に上った。ご寄付いただいた未使用切手も活用できた。

(2) ワーカー活動報告会

バングラデシュから第2期の活動を終えて帰国した山内章子ワーカーの報告会が、2014年度2月28日から、2015年度5月31日まで計42回、全国各地で開催された。障がいのある人々の暮らしの現状、活動の成果など報告し、障がいのある人と共に生きることにについて考える機会を提供した。主な訪問先は、学校や教会、保健医療施設、市民団体などであった。

・4月1日～5月31日 計31回(前年度から始まった報告会(計11回)からの続き)

(3) 地区JOCS活動支援

ー仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・四国高知 (播州・岡山・大曲)

2015年度中に行われた地区JOCSの主な活動は、以下のとおり。

仙台 JOCS		参加者数
毎月第2土曜日	使用済み切手整理作業「きってきっぺ」 (仙台市市民活動サポートセンター)	98
10/25	せんだい地球フェスタに出展(仙台国際センター展示棟)	-

3. 国内諸活動

足利 JOCS		
4/12	山内章子ワーカー報告会（生涯学習センター）	18
12/12	足利市民クリスマス（足利市民プラザ小ホール）	250
町田 JOCS		
毎月第3土曜日 （10月まで） 毎月第3水曜日 （11月から）	使用済み切手整理 （LTL キリスト教会：10月まで） （メディカルホームグラニー玉川学園・町田：11月から）	-
京都 JOCS		
4/4	チャリティウォークソン（京都鴨川河川敷）	56
5/30	山内章子ワーカー報告会（京都府国際センター）	31
7/31	チャリティーコンサート（アルティ）	300
大阪 JOCS		
9/26	大阪 JOCS カフェ 東岡牧看護師・JOCS 理事（大阪聖パウロ教会）	26
神戸 JOCS		
	委員会を開催したが、集いは実施せず	
芦屋 JOCS		
5/31	山内章子ワーカー報告会（芦屋西教会）	112
四国高知 JOCS		
10/16	畑野研太郎 JOCS 会長講演会 四万十集会（日本基督教団中村栄光教会）	18
10/18	畑野研太郎 JOCS 会長講演会 高知集会（日本基督教団高知教会）	52
10/24～10/25	高知スタンプショウに出店（イオンモール高知）	-

（4）講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。申し込みのあった以下の諸団体（16 団体）に講師を派遣した。

2015 年

4 月：京都ウイングワイズメンズクラブ例会

5 月：日本基督教団千葉教会、関東学院六浦中学校・高等学校、

- 6月：明治学院中学校、大阪天神橋ライオンズクラブ
7月：明治学院東村山高等学校
10月：フェリス女子学院大学
11月：フェリス女子学院中学校・高等学校、聖隷クリストファー大学、
堺川尻教会 CS 礼拝
12月：恵泉女学園中学・高等学校、同仁美登里幼稚園、関西学院大学
2016年
1月：マナ愛児園
2月：富士見町教会
3月：特定医療法人新生病院

(5) 事務局見学受入

JOCS の活動内容や使用済み切手運動について学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れを行っている。今年度は、学校や教会など、計 10 団体の訪問があった。

<東京事務局> (6 団体 75 名)

明治学院高等学校、青山学院初等部、恵泉女学園中学・高等学校、香蘭女学校、茨城県立土浦第一高校、東京第一友の会

<関西事務局> (4 団体 2 個人 34 名)

オムロン、大阪西ローターアクト、大阪産業大、吉備中央町国際化推進協会

(6) 視聴覚資料 (DVD、写真パネル、切手紙芝居)

今年度は、DVD の貸出依頼が、5 件であった。

現在、JOCS における貸出可能な視聴覚資料は下記のとおりである。貸出可能な DVD においては、すべて YouTube のサイトに掲載し、ホームページからも視聴ができる。

<DVD/VHS>

- ・50 周年記念 DVD 「カシナマジヤパン」 / 「心をひらいて」
- ・アジアの呼び声に応えて
- ・エイズと向き合う
- ・クメールの人々とともに
- ・使用済み切手でアジアに医療協力を
- ・日本のお友だちへ
- ・はるかなるネパールの村へ
- ・オカルドゥンガ診療所にて
- ・世界の屋根のヒゲ・ドクター
- ・ノーレンの目が見えた
- ・ヒマラヤの結核キャラバン

3. 国内諸活動

<写真パネル>

- ・ワーカーの活動地
- ・「みんなで生きる」表紙

<ホームページからダウンロード>

- ・使用済み切手運動紙芝居

(7) 仙台を訪ねて復興支援を考える旅

日程：2015年9月26日（土）～27日（日）

訪問地：仙台市、名取市(日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオ活動地)

参加者：10名（女性6名、男性4名）

目的：復興支援の現場を視察し、震災から4年経った現在も必要とされている支援について学ぶ機会を提供する。この機会を提供することで、一人でも多くの方が被災地に継続して関わり支援していきたいと思うようなツアーにする。

内容：東北教区被災者支援センター・エマオの活動報告、仙台市内・名取市内訪問、日本キリスト教団名取教会日曜礼拝出席

成果：参加者たちが、復興に向けてできることを具体的に考えるきっかけを提供することができた。

(8) JOCS のつどい

目的：JOCSの活動を初めて知り、イベントに参加してくださった方々の理解と賛同を得る。また、既存の支援者の方々には感謝の気持ちを伝え、活動報告の機会とする。

1) JOCS のつどい 2015「バングラデシュから愛をこめて」（東京）

日時：2015年11月23日（月・祝）

場所：日本基督教団信濃町教会

来場者：110名

内容：山内章子ワーカーによるバングラデシュ活動報告と慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団による合唱で、どちらも参加者の皆様から好評を得ることができた。

成果：初めてイベントに参加された方から「JOCSの活動を今後も支援したい。」という感想をいただき、主目的である初めてJOCSのイベントに参加された方の理解と賛同を得ることができた。また既存の支援者から「ワーカーとの出会いによって、バングラデシュの女性たちの生活に希望が与えられ、彼女たちが周りの人々にもその愛を分かち合っていることが感じられました。」という感想もあり、副目的である報告で共感を得ることができた。

2) 関西 JOCS2016「ネパールと JOCS—みんなで生きるために—」（大阪）

日時：2016年2月14日（日）

場所：日本基督教団大阪教会

関西地区活動委員会の協力を得て開催した。元ネパール派遣ワーカーの檜戸健次郎医師を講師にお迎えし、「ネパールの碧い空」というテーマで話をしていただき、併せて大阪ハインリッヒ・シュッツ室内合唱団のコンサートも行った。またネパールとJOCSの歴史が分かるDVDの上映もあった。当日は205名の来場者があり、当日運営スタッフは24名（事務局スタッフ除く）、使用済み切手も5.6キロ集まった。また、新規入会者も9名あった。イベント後は、1階のホールにて、元ワーカーによる相談会やネパールの手工芸品販売、パネル展示など、多くの方に楽しんでいただけたイベントとなった。

（9）プレスリリース強化

各新聞社に帰国ワーカーの活動概要を記したニュースレターを送り、取材依頼したが取材申し込みはなかった。ワーカー報告会開催情報は、キリスト教系の新聞、雑誌に掲載された。「JOCSのつどい2015」は東京新聞、キリスト教系の新聞、雑誌に掲載された。「関西JOCSのつどい2016」も毎日新聞、クリスチャン新聞、雑誌に掲載された。

（10）ネットワーク活動

現在、「国際協力NGOセンター（JANIC）」「関西NGO協議会」「障害分野NGO連絡会（JANNET）」「カンボジア市民フォーラム」に加入している。JANICでは、JANIC会員の集いへの参加、各種セミナーへの参加、組織運営能力強化のためのアンケート協力などを行った。カンボジア市民フォーラムでは、世話人として運営の一端を担うほか、セミナー開催への協力やニュースレターの執筆をした。JANNETでは、担当職員が監事として運営に携わり、JANNETが主催団体の一つとして携わった第3回アジア太平洋CBR会議に参加した。

また、国際協力を主たる事業とする公益法人のネットワーク「公益法人に関するNGO連絡会」（JANIC正会員ワーキンググループ）のメンバーとして、3ヵ月に1回、ガバナンス強化のための情報交換会に参加した。さらに、「公益法人に関するNGO連絡会」のうち7団体で「遺贈分科会」を構成し、共同パンフレット作成などを行った。詳細は【3-4】マーケティング（9）遺贈マーケティング参照。

安全保障関連法が国会で議論される中、「NGO非戦ネット」（非戦の平和、共生を目指すNGOの緩やかなネットワーク）に賛同し、他のNGOとともに法案反対の立場で活動に参加した。

【3-4】マーケティング

会員数は、過去長らく年間の純減200名が続いていた。「5ヵ年計画2013」において、2017年度末までに退会者数と新規入会者数を均衡させることを目標としている。2015年度

3. 国内諸活動

の目標は、250 名入会、300 名退会、純減 50 名であった。

2014 年度に広報の専門家の指導、助言を得て理事・監事・職員全員が行ったブランディングにおいて、アプローチする対象をクリスチャン及びキリスト教共感層とすることを決定した。特に、教会に通っている 50 代～60 代の女性及び定年後の 60 代の男性、キリスト教主義学校関係者、友の会会員を重点対象とした。これらの方々に、JOCS の活動への賛同・共感をもってもらうことを目的として広報活動を行った。また、既存支援者に対しては、会報や年次報告書に JOCS の設立理念を表現する記事を掲載するとともに、細やかなコミュニケーションを行うことで、より信頼していただける団体となることを目指した。

結果、新規入会者は目標に及ばず 142 名であったが、継続率向上により退会は 257 名、純減 115 名となった。

(1) 会報誌「みんなで生きる」の発行

発行回数：年 7 回（偶数月 10 日、11 月 10 日発行）

発行部数：通常号	： 6,500 部
6・7 月号（簡易版）	： 17,600 部
子ども号	： 8,000 部

体裁：A4 版。通常号および子ども号 16 ページ、6・7 月号 4 ページ

送付先：会員と寄付者等。6・7 月号は、年次報告書とともに全支援者に送付した。

特集記事：4・5 月号 山内章子バングラデシュワーカー活動報告

6・7 月号（簡易版のため特集記事はなし）

8・9 月号 奨学金事業モニタリング（タンザニア）

10・11 月号 奨学金事業モニタリング（インドネシア）・学校保健教育プロジェクト終了時評価

子ども号 JOCS の活動紹介

12・1 月号 JOCS につながる人たちからのクリスマスメッセージ

2・3 月号 タンザニアの保健医療の現状と JOCS の活動

その他、会長巻頭言、ワーカーからの手紙、切手部通信、JOCS と私、地区 JOCS から、新入会者報告、協働プロジェクト進捗報告、奨学生紹介、国内活動の案内や報告を掲載した。

評価活動：毎号、都道府県順に 100 人の会員を抽出し、往復はがきでアンケートを送付した。毎回 30 通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。

編集・校正ボランティア：編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。柏木牧子（イラスト）、黒川瞳、古中大輔、那須野幸子

(2) 年次報告書

前年度（2014 年 4 月～2015 年 3 月）の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた

年次報告書を発行した。支援者への感謝とともに、JOCS の成り立ちや使命、活動内容や成果をわかりやすく伝えることを目的とした。

会報誌 6・7月号と夏期募金趣意書とともに発送した

発行回数：年 1 回（6 月 10 日発行）

発行部数：17,600 部。うち 16,211 部を発送した

体裁：A4 版。20 ページ。

送付先：全支援者

評価活動：アンケートを同封し、318 件から回答を得た（回答率 2.0%）。

（3）ホームページ

2015 年度から始めた、使用済み切手などの換金に関する宣伝のページとそれに関するブログは、有効に活用できた。切手換金のための商品の販売開始や一時的な中止などの案内としてタイムリーに活用できた。ブログや Facebook では、それらの話題を補完するためのページとして存在意義が認められた。

（4）「JOCS フォーラム」の発行

本年度は発行を見送った。

（5）ボランティアテックの活動

20 年以上 JOCS の広報のお手伝いをしてきたプロ・セミプロのフォトグラファー、イラストレーターのボランティアグループ「ボランティアテック」が今年度を持って、解散することになった。今まで 20 名近くの方々に関わっていただき、JOCS の会報誌「みんなで生きる」の表紙をはじめ多くの広報関係の事柄に関わっていただいた。その蓄積されたものを、今年度 2 回のミーティングを通してまとめ、JOCS へ提出した。

（6）雑誌広告

キリスト教界での周知を図ることを目的とし、キリスト教雑誌 2 誌（『百万人の福音』『信徒の友』）に広告を掲載した。1 月号では 1 ページ、それ以外の号では 1/3 ページのスペースに写真をいれた広告とした。1 ページ広告では、冬期募金趣意書と同じ文章を写真とともに掲載したが、それを見ての問い合わせが複数件あり、通常の号と比べ反響が大きかった。今年度は雑誌広告をきっかけとした新規入会 3 名、新規寄付者 1 名を得た。

（7）会員マーケティング

2015 年 4 月から 5 月までの報告会では、16 名の新入会、16 名の新規寄付者を得ることができた。前回の報告会より大幅に増えたが、目標 40 名に対して 32 名にとどまった。目標には届かなかったものの、ほとんどが教会で開催した報告会に参加された方々であ

3. 国内諸活動

った。開催先を絞った効果が現れた。また、会員の継続率を向上させるため、2014 年度から「会費納入のお願い」「領収証」の送付時等に、より細やかなコミュニケーションに努めている。会費納入率（会費期限後 1 年以内の納入率）が 2%（約 80 名）上がり、会費期限切れで退会となる会員が少なくなった。

（8）募金

今年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2015 年度	依頼件数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	16,048 件	2,458 件	15.3%	22,357,239 円
冬期募金	16,807 件	5,462 件	34.6%	52,519,706 円
その他の募金	—	—	—	9,311,979 円
東日本大震災 被災者支援指定	—	—	—	11,420 円
災害救援指定	—	—	—	1,377,662 円
国別指定	—	—	—	1,194,823 円
奨学金指定	—	—	—	1,950,000 円
海外保健医療協力指定	—	—	—	500,000 円
海外派遣事業指定	—	—	—	1,600,000 円
総計	—	—	—	90,822,829 円

夏期募金は、例年どおり、年次報告書と「みんなで生きる」6・7 月号に、募金趣意書と払込用紙を同封した。冬期募金は、岩本直美ワーカーが働いているラルシュ・マイメンシンのメンバーを紹介する文章を掲載した。夏期・冬期募金の趣意書に、会員募集の旨を載せたところ寄付者から会員へと移行した寄付者が 17 名あった。また冬期募金の趣意書を過去 1 年間の新規切手協力者 1,191 名に発送し、そのうち 43 名から新規の募金協力があつた。

（9）遺贈マーケティング

「公益法人に関する NGO 連絡会遺贈分科会」のメンバー 7 団体で、以下の活動を行った。

- ・遺贈や相続財産の寄付に関心のある方向けに共同のパンフレットを作成した。
- ・信託会社、法律事務所、税理士法人と連携の覚書を締結した。
- ・法律事務所と連携し、台東区の後援を得て、遺贈・相続セミナーを 2 回開催した。
- ・NGO を対象に遺贈・相続財産の寄付に関するアンケート、ヒアリング、海外の事例研究を行い、シンポジウムで発表した。

4. 運営会議

公益法人として法律で定められている社員総会及び理事会を以下のとおり開催した。また、透明性の高い組織運営を行うため、各種委員会活動、評価活動を行った。

【4－1】 第54回定時社員総会

2015年6月13日（土）午後1時30分より、東京都中野区の中野サンプラザにて、39名の社員の出席と184通の委任状、37通の書面表決を以って開催した。議事に先立ち、バングラデシュ派遣山内章子ワーカー活動報告、続いて、溝のロキリスト教会 仁井田義政牧師から奨励がなされた。その後、2014年度事業報告が行われ、議事である2014年度決算報告、理事補充の選任、役員の報酬及び費用に関する規程改定が承認・決議された。また議案審議の終了後には、2015年度事業計画、収支予算報告について説明がなされた。最後に、本総会をもって会長を退任する小島莊明氏、新会長となった畑野研太郎氏から社員の皆様へ挨拶がなされた。

【4－2】 理事会

定例理事会は、以下の日程、場所で開催した。

2015年	4月18日	東京事務局
	6月20日	東京事務局
	8月1日	東京事務局
	10月3日	東京事務局
	11月28日	東京事務局
2016年	1月23日	東京事務局
	3月12日	関西事務局

今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：小島莊明（会長）（～6月13日）、大友宣（常務理事）、植松功、
土居弘幸（6月13日～）、名取智子（6月13日～）、
畑野研太郎（会長6月13日～）、榛木恵子、東岡牧、平本実、真鍋まり、
森田隆

監事：辻本嘉助、渡部芳彦

小島莊明氏は第54回総会（6月13日開催）の終結をもって会長および理事を辞任し、畑野研太郎氏が会長に就任した。

4. 運営会議

【4－3】委員会

（1）関西地区活動委員会

委員長：船戸正久

委員：宇山進、大谷 透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田 恒、
杉村（諏訪）恵子、中村満子、畑野めぐみ、和田 浩

- 1) 隔月に開催している委員会では、各地区 JOCS の活動報告、募金報告、バザー、関西 JOCS のつどいに関する協議・反省などを行った。
- 2) 毎年恒例の関西 JOCS バザーは 21 回目を迎え、2015 年 5 月 9 日（土）に大阪聖パウロ教会で開催した。今年より関西地区活動委員会委員の加輪上敏彦氏が委員長に就任し、昨年同様のべ 100 名以上のボランティアの方々のおかげで入場者約 400 名、純利益 1,364,160 円の内、約 12 万円を次回バザーの準備金とし、残金を JOCS へ寄付した。年々、使用済み切手も集まるようになり、今回は約 40 キロ集まった。
- 3) 「関西 JOCS2016」の開催に協力した。詳細は、**【3－3】国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動**（8）JOCS のつどいを参照のこと。
- 4) 今回は、上記のイベントの企画運営準備のために、通常の委員会開催の他、臨時委員会を 2 回開催した。常に出席率は 80～90%であった。

（2）研修生・奨学金委員会

委員長：柳澤理子

委員：小宅泰郎、杉村（諏訪）恵子、細谷たき子、宮崎雅、山崎真由美

1) 奨学生選考方法の設定と選考基準の明確化

委員会で検討を行い、公益社団法人としての透明性を確保し、協議の効率化をはかるため、選考の手続きを明確化した。その手続きは以下の通りである。まず、各委員が申請書類を元に申請者それぞれを三段階評価（A：ぜひ採用したい、B：採用してもよい、C：ふさわしくない）する。そして、それを一覧にした表を基に委員会で協議を行う。

また、委員会で検討し、奨学生を選考する際、以下の点を考慮することとした。

- ・JOCS の方針に沿っているか（女性、子ども、障がいのある人、少数民族、HIV/AIDS と共に生きる人々、医療の過疎地にある人々へ貢献できるような人材）
- ・その地域に研修終了後残りそうか
- ・その研修が、病院・地域の緊急性やニーズに合っているか（所属団体の優先順位）
- ・本人のビジョン・熱心さがうかがわれるか（自分のやりたいことが説明できているか）
- ・自己資金があるかどうか（本人の経済状況）
- ・現在 JOCS の事業（ワーカー派遣、協働プロジェクト）が展開している地域かどうか

2) 2015 年度奨学生選考

ネパール大地震の影響を考慮し、ネパールからの応募に関しては締切を3ヵ月延長し、別途選考を行うこととした。

2015年度予定していたものの、実施できなくなったインドとネパールでのモニタリング費用として計上していた予算は、ネパール新規選考へ充当した。この結果、ネパールを含む4ヵ国からの41件の申請のうち19件を理事会へ提案し、承認を受けた。

3) その他

承認後に研修期間や学費などに変更が生じた場合の対応のルールを決め、理事会へ提案し承認を受けた。

今年度予定していた第3回奨学金委員会は、次年度に延期となった。

(3) 財務委員会

委員長：平本実

委員：佐藤光、中畠裕一、畑野研太郎

財務委員長であった畑野研太郎理事の会長就任に伴い、本年度は理事会が平本実理事を委員長として選任、任を執った。

例年と同じように、委員会は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、財政運営が適正に行われていることを確認した。2015年4月に起こったネパール地震被災支援事業実施のため、また財務会計システムの業務支援サービス契約締結に対応するために補正予算の計上を承認し、理事会に提出し、承認を受けた。特定資産の運用についても協議をした。また、ワーカー派遣事業への指定寄付を受けられるよう、新たに「海外派遣事業資金規程」を承認し、理事会に提案した。

年度後半には決算見込みを確認の上、次年度予算案を精査し、会長に提出した。本年度も高額のご寄付をくださった方にアンケートをお願いし、支援者の動向やJOCSに求めるものを伺って、委員会で共有した。5ヵ年計画で課題となっている支出と収入の均衡を図る目標については、今年度は支出が抑えられたことにより目標に近づくことができたが、物価高騰に伴う経費節減と共に、収入増を含む取り組みを理事会に引き続き求めた。

(4) 国際保健人材育成タスク

担当：榛名恵子、森田隆、服部由起

榛木恵子理事の協力を受け、国際保健医療協力活動に将来携わることができるような人材を育成していくにはどうしたらよいかについて、9月と2月にミーティングを行った。また、提言をまとめるうえで参考にするため、元ワーカーや関係者にインタビューを行った。3月までに提言をまとめ、理事会に提言を提出し、承認を受けた。今後は、提言内容に基づき、ホームページの改訂、インターンの活用、キャリア相談会などを進めていく。

5. 事務局

【4－4】 5ヵ年計画 2013 モニタリング

2013 年度から開始した 5 ヵ年年計画の中間評価を実施した。「5 年後にはワーカー派遣事業では長期ワーカー3 人、奨学金事業は 7 ヵ国、協働プロジェクト事業は 3 件をもって事業間連携をしつつ活動が活発に行われている。また各事業で世界のキリスト教会との連携と他宗教との対話が促進されている。そして一定数の会員に支えられ、寄付額を十分得て収支均衡となる。」という目標に対し、海外諸活動は 3 事業とも順調な進捗であり、タンザニアでの事業展開のように事業間連携も進められている。しかし安定的かつ持続的な事業の展開のために策定を予定しているいくつかのガイドラインがまだ作成されていないので、今後はそこにも注力する必要がある。国内諸活動ではワーカー報告会の実施方法の変更、奨学金事業の積極的アピール、会費納入依頼時のコミュニケーション強化などのマーケティング施策の成果が徐々に始まっており、会員数の減少幅は小さくなりつつある。

【4－5】 評価

海外派遣者に対して実施している自記式アンケートを以下のワーカーに行い、回答を理事会で検討した。

岩本直美ワーカー	3 年目	2015 年 5 月
弓野綾ワーカー	1 年目	2016 年 3 月

5. 事務局

今年度は職員が 1 名退職し、1 名は育児休職を取得中であったため通常より少ない人数での事務局運営となったが、多くのボランティアの方々（東京事務局 48 名、関西事務局 71 名）のご協力により、計画していた各事業を遅滞なく実施することができた。

事務局長・海外事業部長	森田隆
事務局次長・マーケティング部長・管理部長	名取智子
東京事務局	大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、服部由起、山中信 山本美穂子（6 月～12 月）、（育児休職：森田真実子） 横山菜穂（インターン、～12 月）
関西事務局	渋谷理香、西村卓

6. 社員会員・一般会員の現状報告

2016年3月31日現在

社員会員	332名
一般会員	3,785名
合 計	4,117名

2015年度中の社員会員、一般会員の異動

1. 社員会員

(1) 新しく社員会員となられた方	17名
(2) 社員会員を辞し、一般会員となられた方	41名
(3) 退会された方	10名

2. 一般会員

(1) 新たに入会された方	130名
(2) 退会された方	247名

7. 2015年度の主な動き

4月

- 1日 弓野綾ワーカー、タンザニアに赴任
- 4日 京都 JOCS チャリティーウォークソン（鴨川河川敷）
- 12日 足利 JOCS のつどい（生涯学習センター）
- 21－5月4日 森田隆事務局長、協働プロジェクト調査のためケニア、ワーカーケアのためバングラデシュ出張
- 24－26日 スタンプショウに出店（都立産業貿易センター台東館）

5月

- 9日 JOCS 関西バザー（大阪聖パウロ教会）
- 12日 乾真理子短期ワーカー、バングラデシュに赴任
- 22日 国際保健医療勉強会（東京事務局）
- 30日 京都 JOCS のつどい（京都府国際センター）
- 31日 芦屋 JOCS のつどい（芦屋西教会）

7. 2015 年度の主な動き

6 月

- 1 日 山本美穂子職員入局
- 13 日 第 54 回定時社員総会（中野サンプラザ）
- 21 日 山内章子ワーカー派遣祝福式（日野キリスト教会）
- 22－7 月 2 日 森田隆事務局長、協働プロジェクトモニタリングのためバングラデシュ出張
- 24 日 山内章子ワーカー、バングラデシュに赴任
- 27－28 日 広島スタンプショウに出店（広島県立産業会館）

7 月

- 4 日－11 日 高橋淳子職員、協働プロジェクトモニタリングのためバングラデシュ出張
- 11 日－20 日 森田隆事務局長、協働プロジェクトモニタリングのためタンザニア出張
- 31 日 京都 JOCS チャリティコンサート（京都府民ホールアルティ）

8 月

- 10 日 乾眞理子短期ワーカー活動終了、バングラデシュから帰国

9 月

- 5 日 国際保健医療勉強会（東京）
- 26 日 大阪 JOCS カフェ（大阪聖パウロ教会）
- 26 日－27 日 仙台・石巻を訪ねて復興支援を考える旅

10 月

- 3－4 日 グローバルフェスタ JAPAN に出展（お台場・センタープロムナード公園）
- 7－18 日 服部由起職員、協働プロジェクトモニタリングのためタンザニア出張
- 13－24 日 森田隆事務局長、協働プロジェクト調査のためケニア、ワーカーケアのためバングラデシュ出張
- 18 日 四国高知 JOCS のつどい（高知教会）
- 24 日－25 日 高知スタンプショウに出店（イオンモール高知）
- 25 日 仙台 JOCS、せんだい地球フェスタに出展（仙台国際センター）

11 月

- 14 日 国際保健医療勉強会（東京事務局）
- 23 日 JOCS のつどい 2015 「バングラデシュから愛をこめて」（東京 信濃町教会）

12 月

- 6 日－12 日 高橋淳子職員、協働プロジェクトモニタリングのためバングラデシュ出張

- 12 日 足利市民クリスマス（足利市民プラザ）
- 24 日 関西事務局ボランティア・クリスマス会
- 26 日 ワンワールドフェスティバル for Youth に出展（大阪交流国際センター）
- 29－30 日 国際保健医療協力フィールドセミナー（横浜市中区 寿地区）
- 31 日 山本美穂子職員退職

1 月

- 15 日 国際保健医療勉強会（東京事務局）
- 29 日 東京事務局ボランティア交流会

2 月

- 1－9 日 森田隆事務局長、協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア出張
- 3－12 日 服部由起職員、協働プロジェクトモニタリングのためタンザニア出張
- 14 日 「関西 JOCS2016」ネパールと JOCS－「みんなで生きる」ために（大阪教会）
- 23 日－26 日 森田隆事務局長、高橋淳子職員、協働プロジェクトモニタリングのため
バングラデシュ出張
- 26 日 JANIC「アカウントビリティ・セルフチェック 2012」実施

3 月

- 7 日 岩本直美ワーカー第 5 期活動終了、バングラデシュから帰国
- 28 日－4 月 6 日 森田隆事務局長、ワーカーケアのため、タンザニア出張